

第2次静岡県循環器病対策推進計画案について

第2次静岡県循環器病対策推進計画案の策定経過

策定経過

○第1回部会、協議会において骨子案、分野別施策の拡充を協議



○第2回部会、協議会において、ロジックモデル、素案を協議



○2023年12月27日～2024年1月24日
県民意見の募集（パブリックコメント）を実施



○第3回部会、協議会において、最終案を協議



○2024年3月（予定） 第2次静岡県循環器病対策推進計画 公表

- 第2回協議会での御意見等を踏まえた、素案からの主な変更点
- 部会での主な御意見と対応
- パブリックコメント等での御意見と対応
- 循環器病の研究推進の記載の充実

素案からの主な変更点（計画案）（1）

	ページ	内容	理由
1	P17,18	全体目標である年齢調整死亡率の数値を更新しました。 これに伴い、脳卒中の目標値を更新（2022年の全国平均）しました。	2022年人口動態統計及び2022年10月の推計人口から、年齢調整死亡率を算出しました。
2	全体	県民健康基礎調査関係のデータを更新しました。	第2回脳卒中部会においても御意見がありましたが、2022年の調査結果が取りまとめられたため、更新しました。
3	P41,42 P56	維持期・生活期に服薬、栄養管理等に関する以下の内容を追記しました。 「かかりつけ医機能の充実や病診連携、かかりつけ歯科医等による医科歯科連携や歯科口腔保健の充実、かかりつけ薬剤師・薬局による服薬アドヒアランスの向上、看護師による切れ目のない看護の提供、管理栄養士・栄養士による栄養管理や、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士によるリハビリテーション等の多職種による支援・サービスの提供等を推進します。」	第2回協議会での御意見を踏まえ、追記しました。

素案からの主な変更点（計画案）（2）

	ページ	内容	理由
4	P63	<p>第5章第3節 感染症の発生・まん延時や災害時等の有事を見据えた対策に以下の内容を記載しました。</p> <p>「平時のみならず感染症発生・まん延時や災害時等の有事においても、循環器病患者等に対する医療の提供体制を確保するため、地域における医療資源を有効活用できる仕組みづくりを検討するとともに、平時から行政、医療機関、介護施設等の関係者間の意思疎通、情報共有、連携の推進を図ります。」</p>	<p>国の第2期循環器病対策推進基本計画、次期静岡県感染症予防計画等を踏まえ、記載しました。</p>

素案からの主な変更点（ロジックモデル）

	疾患	内容	理由
1	脳卒中 心血管疾患	分野アウトカムである年齢調整死亡率の数値を更新しました。 これに伴い、脳卒中の目標値を更新（2022年の全国平均）しました。	2022年人口動態統計及び2022年10月の推計人口から、年齢調整死亡率を算出しました。
2	脳卒中 心血管疾患	リハビリテーションに関する指標を急性期にも追加しました（回復期を「再掲」としました）。	第2回協議会での御意見を踏まえ、追加しました。
3	脳卒中	救護の個別施策の指標を「脳卒中の病院前スケールを活用している一次脳卒中センターの割合」としました。	検討中としていましたが、参考資料3のアンケート調査に基づく指標を設定しました。
4	心血管疾患	「心不全手帳導入後の再入院率」を分野アウトカムに位置付けました。	第2回協議会での御意見を踏まえ、追加しました。

部会での主な御意見と対応（1）

	ページ	意見内容	対応（取組の方向性）
1	P15	数値目標に全国での順位を入れてはどうか。 （保健医療計画への御意見）	（意見の趣旨を踏まえ取り組む(取り組んでいる)） 健康寿命は男性、女性、男女計で全国5位です。 年齢調整死亡率などの順位は算出できるもの とできないものがありますので、必要に応じて把握し、部会、協議会で報告してまいります。
2	P23 P28	脳卒中や循環器病へのリスクは、適切な 血圧コントロールや活動度の占める割合が 多いので、血圧や活動度に対する取組 みをもう少し増やしていただきたい。	（意見の趣旨を踏まえ取り組む(取り組んでいる)） 血圧測定の習慣化を図るため、血圧手帳 を作成したほか、駅コンコースにおける イベントの開催等を通じて県民への普及 を進めています。また、事業所等にお けるモデル事業を実施し、企業・事業 所における血圧測定の習慣化の手法や 効果について検証を進めています。
3	P28	高血圧の治療を受けているが、血圧 コントロールが不十分な人がいるので、 こうした状況を加えてはどうか。	（計画へ反映） 御指摘の内容がわかりやすいよう、P30 の図4-21（血圧を下げる薬の服用者の 血圧の状況）を修正し、以下のとおり 追記しました。 「 <u>血圧を下げる薬を服用していても、 男女合わせて、40.4%で血圧 コントロールが不十分です。</u> 」

部会での主な御意見と対応（2）

	ページ	意見内容	対応（取組の方向性）
4	P33	脳卒中の危険因子に心房細動を入れてはどうか。 （保健医療計画案への御意見）	（計画へ反映） 施策の方向性に下線部のとおり追記しました。 「○県医師会等の関係団体と連携し、かかりつけ医での定期受診や訪問診療によって、高血圧症の降圧療法をはじめ、糖尿病、脂質異常症、 <u>不整脈（心房細動）</u> 、慢性腎臓病等の継続治療を徹底することを推進します。」 保健医療計画には、心房細動が脳卒中の危険因子であることを追記しました。
5	P31 P33 P45 P61	特定健康診査の受診率や項目の地域差に関する分析を入れてはどうか。	（計画へ反映） 以下の下線部のとおり追記しました。 「○ <u>年代別、地域別の特定健康診査の受診状況</u> 、死因等に関する調査分析を実施します。」
6	全体	死亡率は、西部よりも東部で高くなっているため、特に東部で地域的に重点ポイントを置いて、対策や取組などをしてはどうか。	（意見の趣旨を踏まえ取り組む(取り組んでいる)） 次期健康増進計画では、健康福祉センターごとに、健康課題や取組について、地域の関係者の意見を聞きながら取りまとめているところです。県東部地域では高血圧と喫煙を重点的な課題と挙げる地域が多いため、これらに関する取組を中心に、地域の実情に応じた広域的な取組の実施支援やモデル事業の実施等を検討してまいります。

部会での主な御意見と対応（3）

	ページ	意見内容	対応（取組の方向性）
7	全体	元気な高齢者を活動の場で使えるような施策はないか。生き甲斐を見つけること、人の為に役立てる仕事を求める方は大勢いる。生産者人口が減っている中で、人手不足も多くある。ボランティア又は低賃金（お礼程度）で人のために働ける場所の提供、田舎での個人タクシーや放課後児童などの学童の受入れなどの企画はどうか。	(意見の趣旨を踏まえ取り組む(取り組んでいる)) 壮年熟期（66～76歳）の方が継続的に社会参加するための知識や技能が習得できるよう、居場所や家事支援・移動支援サービス等の生活支援の担い手等として活躍するノウハウを学ぶ「講習・体験会」を実施しています。

パブリックコメント等での御意見と対応（1）

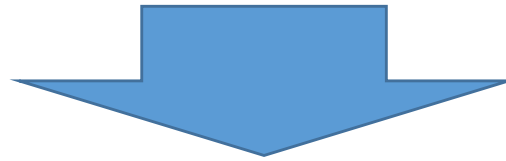
	ページ	意見内容	対応（取組の方向性）
1	P32 P44	循環器病の早期発見のためにも、医療機関の早めの受診を県民全体に促す政策が必要ではないか。	(意見の趣旨を踏まえ取り組む(取り組んでいる)) 脳卒中や心血管疾患の予防の普及啓発において、引き続き取り組んでまいります。
2	P21	減塩について県民の意識を強化するような取組が必要であるが、インパクトが大切であるため、県民の興味と記憶に残る施策を期待する。また、血压管理において130mmHg台で良いと思うことが問題であるため、正常高値血压が129mmHg以下であることをもっと浸透させる施策を期待する。	(意見の趣旨を踏まえ取り組む(取り組んでいる)) 減塩などの生活習慣の改善を引き続き推進するとともに、効果的な循環器病の予防の普及啓発に取り組んでまいります。 また、県内の健康福祉センターごとに、健康課題や取組についてまとめており、地域の実情に応じた広域的な取組の実施支援やモデル事業の実施等を検討してまいります。
3	P21	高血圧予防のための減塩啓発を県全体で大々的に若年～中年者向けに行ってはどうか。特に東部にフォーカスしてはどうか。	県医師会等の関係団体と連携し、かかりつけ医での定期受診や訪問診療によって、高血圧症の降圧療法等の継続治療を徹底することを推進してまいります。
4	P21	塩分制限の重要性を分かりやすく患者へ示してほしい。目標値や推移を数値で見えるようにすることで、やる気につながる。	

パブリックコメント等での御意見と対応（2）

	ページ	意見内容	対応（取組の方向性）
1	P10	<p>心不全の説明について、「慢性の心筋障害により」と記載があるが、急性の心筋障害でも起こり得るため、ガイドラインの定義に合わせ「なんらかの心筋障害により」という文言が良いのではないか。</p> <p>（保健医療計画案に対する法定意見聴取：静岡県保険者協議会）</p>	<p>（計画へ反映） 御意見を踏まえ、「慢性の」を削除しました。 「心不全は、心筋障害により心臓のポンプ機能が低下し、身体各臓器へ必要量に見合う血液を送り出すことができなくなり、日常生活に支障をきたした状態を指します。身体を動かしたときに呼吸困難や息切れが起こり、尿量が減少し、四肢がむくむ等の症状をきたします。不整脈を起こすことも多く、突然死の危険もあります。徐々に悪化し、寿命を縮めます。」</p>
2	P44	<p>「急性心筋梗塞の最大の危険因子は高血圧です。」との記載があるが、出典としているガイドラインには、脳心血管病の最大の危険因子との記載はあるが、急性心筋梗塞の最大の危険因子との記載は見当たらない。</p> <p>（保健医療計画案に対する法定意見聴取：静岡県保険者協議会）</p>	<p>（計画へ反映） 御意見を踏まえ、急性心筋梗塞と大動脈瘤及び解離の危険因子について記載することとしました。 また、本修正に合わせて、項目の並び替え等を行いました。 「○高血圧、脂質異常症、糖尿病及び喫煙は、急性心筋梗塞や大動脈瘤及び解離の危険因子です。」</p>

考え方

- 第2回心血管疾患部会等において「循環器病の研究推進」の記載の充実に関する御意見をいただいた。
- 脳卒中部会及び心血管疾患部会の委員に意見照会を行ったところ、①現在行っている研究と②今後行っていく研究の2つの類型の研究について御意見をいただいた。



方針案

- ①現在行っている研究については、「現状と課題」に具体的な内容を記載し、「施策の方向性」に今後どのように進めていくのか等を記載してはどうか。
- ②今後行っていく研究については、現時点での具体的な内容の記載は難しいため、「現状と課題」に研究内容の概要とそれによりもたらされる効果等を記載してはどうか。

御提案内容

	研究内容の概要	現状と課題	施策の方向性
1	静岡県の特産品である茶葉や海産物の摂取が循環器病に与える影響について、カテキンを中心としたポリフェノールと循環器疾患との関連、EPAを中心とするオメガ3系脂肪酸と循環器疾患との関連、地場産業としての両者を比較した場合の循環器病への影響などについて、公衆衛生学的な手法を取り入れた前向き登録研究の立案。	ポリフェノール、オメガ3系脂肪酸はいずれも循環器疾患に対して予防的な効果がうたわれているが、本県ではその両者がいずれも主産業として成り立っている。県民の食生活が健康寿命延伸に寄与している可能性は十分に考えられるが、現状では科学的エビデンスに乏しい。地場生産品が健康寿命延伸に寄与することの証明で、地産地消を促進するとともに、より一層の健康寿命延伸に寄与する可能性が示唆される。	代表的な山間部、沿岸部、都心部などをモデル地として選定し、限定的な地域での食品指向性（緑茶摂取量、海産物摂取量、その他の嗜好）を調査するとともに、健診等を通じた疾患の登録事業を充実することで、循環器病の有病率、発生率などを評価、検討する。

対応案

以下のとおり追記します。

【現状と課題】

- ポリフェノールやオメガ3系脂肪酸と循環器病との関連が示されており、静岡県の特産品（お茶や海産物等）による循環器病への影響や食の指向性による関連の分析を進めていくことが、地域特性を踏まえた循環器病対策につながるため、今後検討が必要です。

御提案内容

	研究内容の概要	現状と課題	施策の方向性
1	SING AMI registry (Shizuoka intervention group acute myocardial infarction registry)	心筋梗塞後致死性イベントの新たな危険因子探索と着用型除細動器の使用実態調査のため県内8病院（令和5年12月時点）において、急性心筋梗塞の診断で緊急カテーテル治療を行った症例を前向きに登録する多施設レジストリーを構築している。令和5年12月時点で324例が登録されている。	致死性心室性不整脈等の心筋梗塞後致死性イベント発症頻度と、その予測因子を把握し、その予防法・治療法を探索する。また、急性心筋梗塞後の突然死予防に有用である着用型除細動器が適切に処方されているかその実態を調査し、適正使用率の向上を目指していく。

対応案

以下のとおり追記します。

【現状と課題】

- 心筋梗塞後致死性イベントの新たな危険因子探索と着用型除細動器の使用実態調査のため、県内8病院において、急性心筋梗塞の診断で緊急カテーテル治療を行った症例を前向きに登録する多施設レジストリーを構築しており、324例が登録されています（2023年12月時点）。

【施策の方向性】

- 浜松医科大学医学部附属病院は、他の病院と連携して、致死性心室性不整脈等の心筋梗塞後致死性イベント発症頻度と、その予測因子を把握し、その予防法・治療法を探索します。また、急性心筋梗塞後の突然死予防に有用である着用型除細動器が適切に処方されているか、その実態を調査し、適正使用率の向上を目指していきます。

御提案内容

	研究内容の概要	現状と課題	施策の方向性
1	JCVSDデータを利用し、県内心臓血管外科手術成績（O/E比）の推移を年次毎に追跡することで、県循環器対策の実効性を検討する。	心疾患の死亡数統計は県で把握しているが、心臓血管外科手術の現況、特に患者背景を補正したアウトカム（O/E比）は、JCVSDデータを参照しないと明らかにすることが出来ない。県内でも、成績に地域差が存在することが知られており、改善は急務である。	JCVSDデータ利用には、申請による承認と、利用料支払いが必要となる。千葉県では、既に県循環器対策基本計画にJCVSDデータ利用を組み込んでいる。データには、搬送元から手術施設までの距離も含まれており、心臓血管外科手術施設の拠点化に資するデータ構築が可能である。

対応案

以下のとおり追記します。

【現状と課題】

- 日本心臓血管外科手術データベース（JCVSD）は、心臓血管外科手術を受ける患者の手術前の医学的身体状況と行われた手術及びその結果を調査・情報収集し、全国的に集計するものです。本データベースを活用していくことで、心臓血管外科手術実施施設の地域偏在の課題把握、集約化に資すると考えられ、今後検討が必要です。

御提案内容

	研究内容の概要	現状と課題	施策の方向性
2	急性冠症候群患者の生命予後の改善を目的とし、東部、中部、西部地域の基幹病院における急性冠症候群患者の血清LDLコレステロール値の状況を把握するため、各施設の最新の日本動脈硬化学会ガイドラインが定めた血清LDLコレステロール目標値の達成率につき調査する。また、血清LDLコレステロール目標値未達および到達している症例の院内および長期予後を比較する。	急性冠症候群に対する脂質低下療法は、以前と比べ積極的に行われているが、ガイドラインが定めた血清LDLコレステロール目標値に未達の症例あるいは、一度達成しても上昇してしまう症例が散見され、継続的に達成している症例は約30%程度とされている。	本県の急性冠症候群患者の血清LDLコレステロール値のコントロール状況につき現状を把握する。 急性冠症候群患者の脂質低下療法に関する研究は、本県の心血管疾患死亡率減少に寄与するものと考えられ、今後検討が必要である。

対応案

以下のとおり追記します。

【現状と課題】

- 急性冠症候群患者の脂質低下療法に関する研究は、心血管疾患死亡率減少に寄与するものと考えられ、今後、急性冠症候群患者の血清LDLコレステロール値のコントロール状況の現状把握等について、検討が必要です。

御提案内容

	研究内容の概要	現状と課題	施策の方向性
3	小児循環器病治療後のリハビリテーションの有用性を検証する。	成人領域でのリハビリテーションの有用性は確立、一般化しているが、小児領域ではエビデンスに至るデータが揃っていない。 しかし、小児領域でも徐々にその有用性が示されつつある。	小児領域での病後早期リハビリ介入や、中遠隔期でのリハビリ介入により、患児の回復スピードの改善やQOLの改善が有意に得られるのかを研究としてデータを蓄積し、エビデンスに近づけ、循環器医療の改善につなげる。

対応案

以下のとおり追記します。

【現状と課題】

- 小児領域でのリハビリテーションの有用性に関するエビデンスが十分ではなく、病後早期リハビリ介入や、中遠隔期でのリハビリ介入による、患児の回復スピードやQOLの改善等に関するデータ収集について、今後検討が必要です。

御提案内容

研究内容の概要

- 4 ファルマバレーを活用した研究の可能性について記載したらどうか。

参考資料

公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構 主催
公益社団法人静岡県薬剤師会 後援

静岡県治験ネットワーク研修会 第17回アドバンスセミナー

あいまいな知識を確実なものに
～心不全を中心とした循環器領域～

- ◆浜松医科大学 循環器内科
講師 早乙女 雅夫 先生
- ◆浜松医療センター リハビリテーション技術科
理学療法士 土屋 忠大 先生
- ◆静岡市立静岡病院 臨床試験管理センター
薬剤師/CRC 北島 真利子 先生



日時 1月27日(土) 13:30～16:40

13:30～14:20 やさしく、詳しく、心不全診療～基礎編～ 早乙女先生
14:30～15:20 やさしく、詳しく、心不全診療～薬物治療編～早乙女先生
15:30～16:00 心不全患者の心臓リハビリテーション 土屋先生
16:00～16:30 薬剤師CRCからみる循環器領域治験 北島先生
16:30～16:40 事務連絡、閉会



会場 ファルマバレーセンター3F交流ホール
(静岡県駿東郡長泉町下長窪1002-1)

現地開催+ライブ配信(Zoom)
※現地聴講の方へは受講証を発行をいたします



申込 下記URLまたはQRコードより登録下さい

https://zoom.us/webinar/register/WN_sN7NguTFQUWHa54P90IQqQ

登録期限 2024年1月22日(月)



【お問い合わせ】
静岡県治験ネットワーク事務局
(公財) ふじのくに医療城下町推進機構
ファルマバレーセンター 創薬・臨床研究支援部
電話：055-980-6330
E-mail：seminar@fujii-pvc.jp

対応案

以下のとおり追記します。

【現状と課題】

- 医療の進歩により、年々、新たな薬剤が開発されていることから、患者が新たな治療方法の恩恵を早期に受けられるように、治験を積極的に進める必要があります。

【施策の方向性】

- 静岡県治験ネットワークは、患者が医療の進歩に貢献しつつ新たな治療方法の恩恵を早期に受けられるように、先進的な医療に用いる薬剤の治験に積極的に取り組みます。

御提案内容

	研究内容の概要	現状と課題	施策の方向性
5	静岡県が保持する検診、健診、健康保険に係るデータを各医療機関に提供し、研究に活用できるようにするのはどうか。	—	—

対応案

県が保有し、公表可能なデータについては、積極的に公表してまいります。